

●水環境・河川・流域(2) (1-A-10-4~1-A-12-1)

本セッションでは河川における水質の問題について日本国内・熱帯アジアについて様々な研究が報告され、活発な討議が行われた。

1-A-10-4 では名古屋の小河川の水質と周辺住民へのアンケート結果の関係が議論され、住民の水質評価と DO の対応が示された。

1-A-11-1 では BOD 測定値へのアンモニア態および亜硝酸態窒素の酸化の寄与について検討され、アンモニア態窒素の存在だけでなく硝化菌密度が鍵となっていることが示された。

1-A-11-2 では宮城県の鉛川においていくつかの重金属濃度が環境基準を越えていることが報告され、その原因は脈石から酸性の河川水により重金属が溶出しているためと推定された。

1-A-11-3 では河川の鉛汚染と土地利用の関係を考察するために GIS を利用したアプローチが提案され、道路の洗い流し排水が亜鉛汚染源になることが示された。

1-A-11-4 ではラオス国ヴィエンチャン市での密な水質観測の結果が示され、雨季と乾季の流出汚濁負荷量が推定された。

1-A-12-1 ではベトナムハノイ市の腐敗槽（浄化槽）の管理状況（汚泥の引き抜き頻度）と排水水質の関連が明らかにされ、汚泥引き抜き頻度を1年に1回（現行では平均7年に1回）に上げることにより、COD 負荷の7割削減につながると推定された。

セッション全体としては既存の水質計測法の批判的検討、水質計測と地質情報、地理情報、社会科学的情報の組み合わせ、熱帯アジア水域における密な観測と地道な現地調査の組み合わせから河川水質に関して新たな議論が展開された。

最後に、発表に関するテクニカルな問題が発生してセッションが15分ほど遅れてしまった。「パワーポイントのファイルは予め会場のパソコンで開き確認する」という作業が不可欠であることが確認される結果となった。

(東京農工大学大学院 高田 秀重)